



- 特集/ADA NATURE AQUARIUM
- New StyleIndoor Green
- 天野 尚の「超大判フィルムの世界」



BELOW WATER

OLIVER LUCANUS — Photo & Text
オリバー・ルカヌスが贈る水中世界 Vol.14

典型的なアクアスケープ

テレス・ピレス川流域の泉が、水草を育み棲息環境を形成し、幻想的な水景を生み出す。ここではレモンテトラが棲息している。

〔撮影地〕
ブラジル、テレス・ピレス川流域

OLIVER LUCANUS

オリバー・ルカヌス (54)

ドイツ、バイエルン州生まれ。30年以上に渡り、世界中で魚の棲息環境を撮影し続けている。『Xingu Below Water』など写真集を発刊。カナダ、モントリオール在住。IEPA会員。



CREATOR WORKS

Yusuke Homma

NATURE AQUARIUM W1,500 x D600 x H600 (mm)



©AQUA DESIGN AMANO

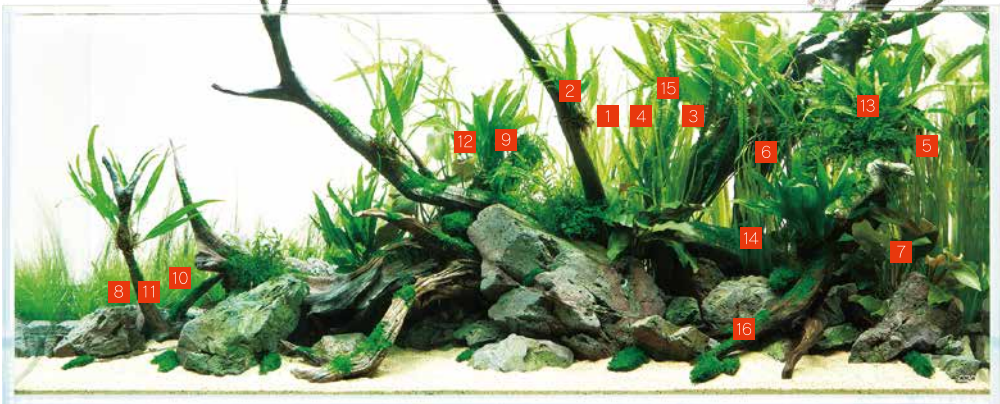
「悠久の流れ」シダの仲間であるミクロソラムを活着させた水景からは、派手さはないものの落ち着いた風情が漂っている。いわゆる時間経過によって得られる表現であり、この状態に落ち着くまでにゆっくりと景観は変化し、その遷移は自然の移ろいを見るようでもあった。



CREATOR WORKS

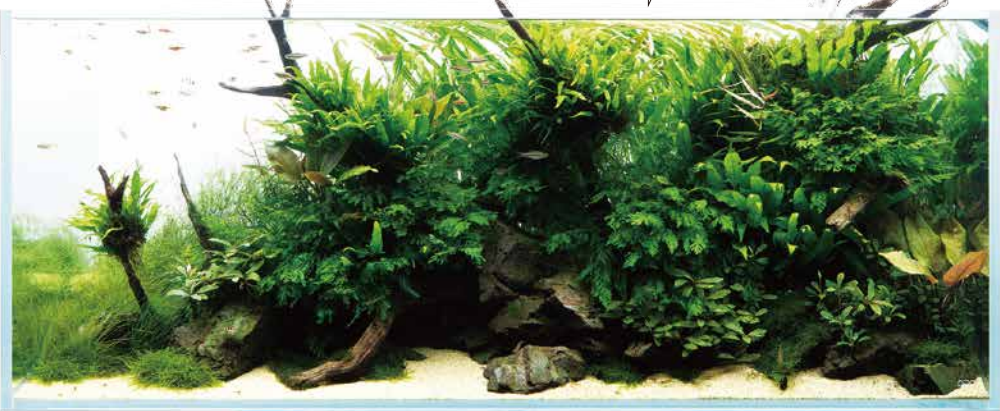
Yusuke Homma
NATURE AQUARIUM W1,500 x D600 x H600 (mm)

植栽



2022年9月8日撮影

完成



2024年5月24日撮影

TITLE 悠久の流れ

DATA

制作日 2022年9月8日
撮影日 2024年5月24日
制作 本間 裕介 (ADA SUIKEI CREATOR)
水槽 キューブガーデン W1,500×D600×H600(mm)
照明 ソーラーRGBⅡ ×3(1日9時間点灯)
ろ過 スーパージェットフィルター ES-1200 & ES-2400(バイオリオG)
素材 ホーンウッド、万天石
床 アクアソイル・アマゾン Ver.2、ラプラタサンド
パワースサンド・アドバンスL、バクター100、クリアスーパ、トルマリンBC

CO₂ バレングラス・ビートル 50φ、CO₂ツイストカウンターで1秒に5滴(タワー使用)
AIR リリィパイプP-6によるエアレーション 夜間消灯時15時間
添加剤 プライティK、グリーンブライティ・ミネラル、グリーンブライティ・アイアン、グリーンブライティ・ニトロ
換水 1週間に1度 1/3
水質 水温25℃ pH:6.7 TH:50mg/L

水草

- 1 クリプトコリネ・シバダサニ (BIO)※
- 2 ミクロソラムsp. 'レッド'
- 3 クリプトコリネ・バランサエ (BIO)※
- 4 アフリカンオテリア
- 5 エリオカロンsp. ソーシャルフェザーダスター(BIO)※
- 6 ブリクサ・アウベルティ レッド
- 7 ラゲナンドラ・ミーボルディ・レッド (BIO)※
- 8 リシア (BIO)※
- 9 ミクロソラム・ブテロプス
- 10 エレオカリス・ビビバラ
- 11 ヘアーグラス (BIO)※
- 12 ポリゴナムsp. 'ピンク'
- Cryptocoryne sivadasanii*
- Microsorium* sp.
- Cryptocoryne crispata* var. *balansae*
- Ottelia ulvifolia*
- Eriocaulon* sp. 'Social Feather Duster'
- Blyxa auberti* 'Red'
- Lagenandra meeboldii* 'Red'
- Riccia fluitans*
- Microsorium pteropus*
- Eleocharis vivipara*
- Eleocharis acicularis*
- Polygonum* sp. 'Pink'

魚種

- 13 ボルビティス・ヒュデロツティ
- 14 プセファランドラsp. (BIO)※
- 15 ヒロハノエビモ
- 16 ウィローモス(モスバッグ)※
- ラスボラ・エスベイ
- ラスボラ・ペンタゾナ・ジョホレンシス
- ラスボラ・サラワクエンシス
- ラスボラ・アイントベニー
- サイアミーズ・フライングフォックス
- オトシンクルス
- ヤマトヌマエビ
- Bolbitis heudelotii*
- Bucephalandra* sp.
- Potamogeton perfoliatus*
- Taxiphyllum barbieri*
- Trigonostigma espei*
- Puntius pentazona johorensis*
- Rasbora sarawakensis*
- Rasbora einthovenii*
- Crossocheilus oblongus*
- Otocinclus* sp.
- Cardina multidentata*

※はADA生体製品ラインナップです。

©AQUA DESIGN AMANO

SUIKEI CREATOR INTERVIEW

本間 裕介 Yusuke Homma

時間経過とともに景観の変化を楽しむ

—— この作品は、以前、"ADA LAB GINZA"で展示されていた水槽ですね。

そうですね。"ADA LAB GINZA"の入口付近に設置する水槽として制作したものです。店舗の入口からお客様の誘導動線を考えて、右から左に流れるような三角構図にしてあります。お客様の目にまず水草の緑が飛び込んできて、視点を奥に向けると空間が広がっていくイメージですね。同じ場所に最初に設置した水景は、華やかな有茎草が中心の春めいた印象の作品だったのですが、その次につくり替えるこの水景は、時間の経過とともにより深い落ち着いた風情が備わっていくような水景にしたかったんです。来店する度に水景の変化が楽しみになるような水景ですね。もう30年以上も前の話になりますが、ADA LABの前身となるADAのアンテナショップが、そういう水槽ばかりだったんです。

—— なるほど、本間さんらしいですね。今、時間ってという言葉が出てきたのですが、それは長期維持や水景の遷移を意識されたということでしょうか。

ADA本社のネイチャーアクアリウム・ギャラリーに設置されている水槽とは違って、こうした店舗に設置する水槽って管理時間が限られたりするので維持のしやすさなどはよりシビアに考えてレイアウト構成を考える必要がありますね。かといって単純な構成のレイアウトではつまらないし、"ADA LAB GINZA"に展示してある限りは自分の作品というよりは、お

客様がネイチャーアクアリウムを始めてみたいとか、興味を持っていただける要素がどれだけあるかも重要だと思っています。だからこの水景は、シダなどの陰生水草を中心に使って、時間経過で趣がにじみ出るような水景にしたかったんです。個人的にもシダが生い茂った自然景観って好きですし、心が落ち着きます。自宅のリビングに設置するなら、そんな落ち着いた印象の景観で水中を意識させるようなレイアウトがいいと思ったんです。また、メンテナンスのしやすさも考慮すると、ミクロソラム、ボルビティス、プセファランドラなどの活着性水草が多くなっています。

—— その活着性水草の配置のポイントってありますか。(下写真参照)

地味に工夫しているんですよ(笑)。一見しただけはわかりにくいかもしれませんが、ミクロソラムは普通のM.ブテロプスと新芽の葉先が赤みを帯びるM.ブテロプス レッドの2

種類を使っています。流木の枝にはやや細身の葉が付くM.ブテロプス レッドを活着させ、それらの枝の合間の奥には幅広の葉の付くM.ブテロプスを活着させ、2種類のやや葉姿が異なるミクロソラムがジグザグを描くように配置しています。これは中景でありがちな活着性水草の単調さを回避するためでもあります。また中景では色彩のトーンでも工夫をしています。ミクロソラムは葉を上向きに展開するので、光が葉を透過しライトグリーンの明るいトーンに見えますし、ボルビティスは葉色がダークグリーンでしかも葉が下向きに展開するので暗いトーンに見えます。そうした性質も考慮して同じ中景でもミクロソラムは上方に、ボルビティスは下方に配植しています。暗いトーンのボルビティスは、下の方に配植すると視覚的に安定感が出ますね。こうしたグリーンの色彩トーンの中で、M.ブテロプス レッドの赤みを帯びた新芽の様子がとてもいい感じでお気に入りでした。"ADA LAB GINZA"で設置されてい



"ADA LAB GINZA"設置当時の様子。2023年5月1日撮影

たときは、このM.ブテロプス レッドの赤みがうまく出ていたのですが、新潟のネイチャーアクアリウム・ギャラリーに移動してからはこの赤みが出にくくなりました。おそらく水質と照明時間の問題だと思うのですが、なかなか思い通りにはなりませんね。

—— 安定感ということでは構図素材は結構しっかり組まれている印象ですが、何か意識した点とかありますか。

構図の安定性は非常に重要で、不安定な流木はメンテナンスするときに大変ですし、長期維持できないんですよ。これは私のいつもの組み方なんですけど、配石のラインに沿って流木を添えて、できるだけ動かないように石と流木を組んでいます。それは自然の中で見ると流木と石の絡み方と同じような関係です。自然では石があって、そこに流木が絡みますよね。しっかり絡まない流木は流れますし、石に沿ってしっかりと絡んだ流木だけが残ります。だから、まず石を組んで、その配石に沿うというか合う流木を選んで構図を組んでいると言った方がいいかな。その際にも流木の形のいい部分は景観として見えるように、形の悪い部分は石や水草を使って隠すようにしています。石も流木も天然素材なので、いい形のものばかりではないですからね。

—— では、メンテナンスで難しかった点などありましたか。

やはりミクロソラムの管理かな。ミクロソラムは葉が大きくなりやすいので、定期的に葉を間引くように管理していました。ミクロソラムはある程度光を当てて、古い葉をこまめに間引くようにするときれいな株に仕上がります。またこの水景では、ブリクサ・アウベルティレッドを色彩的なポイントとしても使っていますが、水中でたなびく様子が視覚的にも重要な役割を果たしています。こうしたテープ状の水草は明るい環境を好むため、ミクロソラムの葉が大きくなり過ぎて光を遮ったり、空間が狭くならないように注

CREATOR WORKS

Yusuke Homma
NATURE AQUARIUM W1,500 x D600 x H600 (mm)

意しました。"ADA LAB GINZA"に設置している期間は、とにかくこのブリクサ・アウベルティ レッドが緑のシダの空間で美しく揺らぐように管理していました。あとは、モスかな。モスが流木や石を全部覆うようになると、素材そのものの表情がなくなることと流木と石が絡んだディテールが失われるので、定期的にプロブラッシュで剥ぎながらモスの活着具合を調整しました。プセファランドラなんかは自身の生長に任せていたのですが、自然のドラマを見ているような生長具合を見せてくれましたね。

—— この水景の制作や管理を通じて何か得られたことがありますか。

そうですね、あえて言うのであれば、テープ系水草の奥行き感の出し方かな。正直な話、本号で紹介した状態よりも"ADA LAB GINZA"に設置されていた状態の方が、自分が最初に制作したときの水景イメージには近いんです。ブリクサ・アウベルティレッドの存在感があって、背景にはクリプトコリネ・パランサエ、クリプトコリネ・シバダサニー、エビモなどいろいろなテープ状の水草がたなびいていたんですよ。ここで何がなかったかと言うと、それぞれのテープ状の水草は葉の太さや葉色が違うので、その縦のラインと色彩で横に広がるわりと平面的な奥行きの表現を試してみたかったんです。ジオラマ的なつくりの水景の空間はパースペクティブを意識して実際の空間よりも奥行きを強調して表現しているのに対して、ここでは水景をレイヤーで構成することを意識して背

景のテープ状の水草を層状に重ねることで、奥行きというか背景の深さを感じさせる表現に挑戦したつもりです。パースペクティブをいかした水景では前方から消失点のある奥へ視線が誘導されますが、レイヤーをいかした水景はそこまで強い奥行きは感じないけれども、背景全体が奥に続いていくような奥深い表現になると言えるのかな。背景のテープ状水草の密度にも濃淡がありますが、その奥が見え隠れするような雰囲気も奥行きの出し方の一つだと思います。そこに見る人の想像力が働くわけで、ワクワクする気持ちにもつながります。ある意味、挑戦的な水景制作だったと思いますね。ただ"ADA LAB GINZA"での展示が終わってから新潟のネイチャーアクアリウム・ギャラリーに水槽を移動してしばらく管理して撮影した水景が本号で掲載されているわけですけど、見事に今話した背景のレイヤー表現が失われてしまっている(苦笑)。ただ、これはこれでいいんです。時間が経過してくると陰生植物が隆盛を極め、陽生植物が衰退していくものなので、ここではその景観の遷移も楽しめるようにシダの生長を優先した管理に切り替えました。2つの水景写真を見比べてみると、その変化が面白いと思います。水景の管理には、同じ景観を保つ管理と景観の変化を楽しむ管理があると思うのですが、景観の変化こそネイチャーアクアリウムの醍醐味ではないかと個人的には思っています。先月、リニューアルオープンした"ADA LAB TOKYO"には、ネイチャーアクアリウムが多く展示されているので、来店の度にそうした変化も楽しんでいただけるといいと思っています。



長期維持を見据えた構図骨格。配石に合う流木を選び構図の安定性を出した。2022年9月8日撮影

MINI NANA #14

Mini NATURE AQUARIUM
MAINTENANCE GUIDE

DATA

撮影日 2024年12月19日
水槽 キューブガーデン W450×D270×H200 (mm)
照明 アクアスカイRGB ベーシック 450 (1日8時間30分点灯)
ろ過 スーパージェットフィルター ES-150 Ver.2 (ハイオリオ G)
素材 プランチウッド
底床 アタソイル・アマソニア Ver.2、パワーサンド・アドバンス、バクター100、クリアスーパードルマリンBC
CO₂ バレングラス TYPE-3で2秒に1滴
AIR リリイパイプ・スピンP-1によるエアレーション 夜間消灯時15時間30分
添加剤 プライティK、グリーンプライティ・ミネラル、グリーンプライティ・アイアン、グリーンプライティ・ニトロ
換水 1週間に1度 1/3
水質 水温25℃ pH: 6.8 TH: 50mg/L



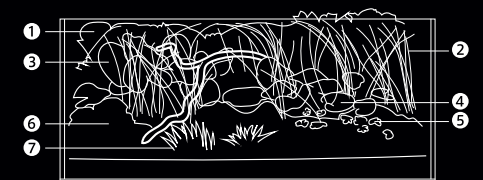
自然の色彩と 光を描く水の庭

人は太古の昔から、自然の中で生きてきた。そのため自然とのつながりは人間にとって本能的なものであり、たとえ都市に暮らすようになって、自然を身近に感じたいという欲求は消えることはない。そのような人間の本能を満たすための小さな自然として古くから庭は存在してきた。そして現代、あらゆる技術は進歩し、植物を室内で育成できるようになっただけでなく、水中景観すら楽しむことができるようになった。普段は目にすることはできない水中の世界を好きな時間に好きなだけ眺めることができる喜び。



ニムファエア・マクラータは、コンパクトな葉姿を保つスイレンとして水槽で楽しむやすい。

光合成による酸素の気泡の様子を目の当たりにできる神秘。この現代の水の庭は、古今東西、作庭の先達は感嘆するに違いない。かの有名な画家のモネは敷地に水を引き、池を掘り、スイレンを愛で傑作「睡蓮」を創作した。今、私たちはわずかW450mmの水槽を室内に設置してスイレンまでも気軽に楽しめるようになった。その立役者が太陽光の代わりとなる人工的なLEDライトだ。光の表現に情熱を捧げたモネが、もし「アクアスカイRGB ベーシック 450」を手にしたらどんな水の庭をつくったのだろうか。そんな空想もこの作例のコンセプト要素の一つになっている。W450mmのフラット水槽は、光が十分に行き渡りやすいため光の恩恵をフル活用したレイアウトが楽しみやすい。こうした水の庭を室内に設けて、自然を意識するというのも現代のインドアグリーンの一つのスタイルと言えそうだ。



植物 ①パールグラス※ ②ヘアーグラス※ ③ニムファエア・マクラータ ④ニムファsp.イ
生体 キトス ⑤オーストラリアンドワーフビドロコティレ※ ⑥ロシア ⑦ウォーターローン
ハイフィンヴァリアタス
※はBIO みずくさの森のラインナップです。

CREATOR WORKS

Kota Iwahori
PALUDARIUM W600 x D300 x H450 (mm)



【樹鎖】
パルダリウムでは植栽する植物のサイズに合わせたリアルなレイアウトが作りやすく、それぞれの植物の魅力を引き出しやすい。ここでは構図素材でもある流木をあえて広い範囲で影をつくるように配置し、枯れ朽ちた樹木の存在感とその周辺に生える植物の様子を写実的に表現してみた。その影となる部分には、暗い日陰でこそ本来の美しさを発揮するペゴニア・ネグロセンシスやコンテリクラムゴケなどを植栽した。水草レイアウトでも陰影表現は大切な要素であるが、この場合使える水草が限られてしまう。それに対してパルダリウムでは、日陰が大好きな陰生植物が豊富にあり、それらの植物は総じて赤や青の独特な輝きを放つ魅力的な種類が多い。パルダリウムは日陰にこそ楽しみがあると言ってもいいくらいだ。だからこそ、影をつくるように流木や石を大胆に組むといい。より迫力やドラマ性を高めるためには、実際に自然に身を置き、目の当たりにしたシーンやそこから学んだ自分なりの表現を取り入れるといいだろう。身近な自然の様子も、リアルな表現としてレイアウトの参考になることがパルダリウム制作の面白さでもある。

D A T A	
撮影日	2025年2月27日
制作	岩堀 康太 (ADA SUIKEI CREATOR)
水槽	ネオグラスパルダ 600
照明	パルダライト 600 (1日8時間点灯)
底床	ジャングルソイル、ジャングルベース、
給水	毎日朝夕の霧吹き(コケが乾燥気味なら多めに)、週2回の「花び草ミスト」
排水	底床の半分を超えたら排水パーツから排水
湿度管理	ハンドスプレーで55%～65%に調整
時間管理	パワーコード S-70



- MAIN PLANTS
- 1 ペゴニア・パボニナ
 - 2 ペゴニア・ネグロセンシス
 - 3 メディオカルカ・デコラタム
 - 4 レプトチルスsp.
 - 5 ヘミオニティス・ロトゥンディフォリア

New Style Indoor Green

Style
14

DOOAで提案するガラスケースで主に熱帯植物の育成を楽しむスタイルをさまざまな作例とともに紹介。日々の生活の楽しみとして取り入れてみては。

DATA

CASE CELL AMBER

PLANT
コルムネア・
ピラピアータ

LIGHTING
マグネットライト G スリム 6段階中3〜4
ライトスタンド Z

SUBSTRATE
ジャングルベース
トロピカルリバーソイル

コルムネアの仲間は、熱帯雨林の樹木や岩などに着生していることが知られているが、本種は茎が直立して生長するため「CELL」での育成にも向いている。葉裏は赤紫色に染まり美しく、オレンジ色の花と白い実を付ける面白い植物だ。



DATA

CASE CELL EMERALD

PLANT
ヘリアンフォラ
(ハイブリッド)
カモジゴケ

LIGHTING
マグネットライト G スリム 6段階中4〜5
ライトスタンド Z

SUBSTRATE
ジャングルベース
トロピカルリバーソイル

一般に明るく、高湿度な環境を好む食虫植物は、「CELL」との相性がよく、中でも筒状の葉が直立するヘリアンフォラの仲間は最適種と言える。ギニア高地に自生する原種も魅力的だが、ハイブリッド種は入手しやすく丈夫です。



DATA

CASE CELL CLEAR

PLANT
アヌビアス・グラキリス

LIGHTING
マグネットライト G スリム 6段階中3〜4、ライトスタンド Z

SUBSTRATE
ジャングルベース、トロピカルリバーソイル

MATERIAL
ヘーゼルグラベル(KUMU)、ヘーゼルグラベルS (KUMU)
タンジェリンレイヤーストーン

「CELL」では水草の水上葉を楽しむのもおすすめ。ここでは葉形が特徴的なアヌビアス・グラキリスとKUMUの石素材を組み合わせて水辺の小景を制作。ボトムケースに浅く水を張れば、腰水管理ができることも「CELL」の特長の一つ。



KUMU MAKING GUIDE

#13

「こだわりのレイアウトを楽しむための化粧素材『KUMU』。ここでは、それらを用いたレイアウトのつくり方や実用的なテクニックなどを、順を追ってわかりやすく解説します。」

HOW TO MAKE

01



テラテープを適当な長さに切り、底面から背面に張り付ける。濡らしながらだとやりやすい。

02



ジャングルベースを底面の半分を目途に敷く。ここから3段に分けて配石や植栽を繰り返していく。

03



KUMU
ライケストーン

1段目はライケストーンが互いに干渉し合い安定するように配石。トロピカルリバーソイルを敷き植栽していく。

04



NEW
ジャングルプランツ
ボルビティス・ベビーリーフ

立て気味に配石して高さを出した2段目。石肌を目立たせるため控えめにボルビティス・ベビーリーフを配植。コケには土留めの役割もある。

05



KUMU
ホーンウッドチップ

ホーンウッドチップにコケを巻き、オーバーハングするように配置。ランとペゴニアを植栽し立体感とボリュームある3段目に仕上がった。

06



メイズグラベルをベースに、ヘーゼルグラベル2サイズを散らせた。小さくても迫力のあるフィリピンの渓流域をイメージしたレイアウトが完成。

- DATA
- ガラスボット MARU130
 - ジャングルベース、トロピカルリバーソイル
 - KUMU ライケストーン
 - KUMU ホーンウッドチップ
 - KUMU メイズグラベル
 - KUMU ヘーゼルグラベルS
 - KUMU ヘーゼルグラベル
 - 植物
 - セラトスティリス・フィリピンシス ● ペゴニア・ポリロエンシス ● ボルビティス・ベビーリーフ ● シノブゴケ ● コツボゴケ ● スキスマトグロッチェス・プリエトイ

IAPLC CREATOR'S FILE #24 Katsuki Tanaka

世界トップレベルの水草レイアウトコンテストである「IAPLC」。このクリエイターズファイルでは、その上位入賞者にインタビューを行い、上達の秘訣や水草レイアウトに対するこだわりを紹介いたします。

タナカカツキさんの
SNSアカウント



IAPLCは人生をかけて挑むことができ 世界中の人と植物をつなぐ 最高に楽しい遊び場です

Q 出品作品の コンセプトをお聞かせください。

グランプリを目指す作品づくりを基本にしつつ、「水草レイアウトは楽しい!」という思いが伝わることを大切にしました。

Q レイアウトを制作していく過程で、 特に工夫した点がありますか？

まだ見慣れないレイアウト手法を提案しながらも、違和感を与えすぎないよう、そのバランスに細心の注意を払いました。

Q 植栽のポイントを 教えてください。

「陰生植物は暗がりに」など育成条件に縛られすぎず、レイアウトの自由さを活かしながらも、行きすぎた表現とならないよう配慮して植栽しました。

Q メンテナンスを行う際に 気をつけていたことはありますか？

水槽内の環境を急激に変えないよう、毎日ほんの少しずつ手を入れるようにしていました。それは自分の生活習慣のためにも。

Q 赤系水草の色合いが印象的ですが、 苦労などありましたか？

できるだけ水上近くの光の強い場所で育て、特に発色の良いものを選び残しながら間引きして、赤の密度を高めて撮影に臨みました。

Q 白い流木が特徴的ですが、 どのようにして白くしていますか？

漂白液に漬け込んでみるなどいろいろ試した結果、最終的には池用の白い塗料を塗るというシンプルな方法に落ち着きました。



構図制作時の様子。光と影のバランスを確認しながら組んでいく。



「ふたたび、緑に覆われる」 Aquarium Size W1,200×D500×H500(mm)

水草：ロターラ・ワリッキー／ロターラ・ワヤナード／ロターラ・ブラッドレッド／ロターラ・ロトンジフォリア・ベトナム Hra／ウィーピングモス／南米ウィローモス／レッドカボンバ／ルドウィジア・オパリス／ルドウィジア sp. スーパーレッド／オレンジミリオフィラム／レッドミリオフィラム／グリーンミリオフィラム／

パールグラス／ニューラージパールグラス／アヌビアス・ナナ プチ／プセファランドラ／ヘアグラス／ショートヘアグラス／オーストラリアンドワーフヒドロコティレ／パリスネリア・ナナ／ビッグミーチェーンサジタリア
魚 種：オレンジグリッターダニオ／ヤマトヌマエビ

Q IAPLCに初めて参加した きっかけはありますか？

世界中から集まる美しい作品たちに感動し、「自分も出品してみたい」と思ったのがきっかけです。

Q 2011年から出品いただいておりますが、 継続の原動力は何でしょうか？

それほどまでに価値ある偉大なコンテストであるということ、同じ志を持つ仲間たちとつながり、意欲を交換できたことが大きな原動力となりました。

Q 最近の水草レイアウトのトレンドについて、 お考えをお聞かせください。

コンテストに限って言えば、見た目の完成度や既視感に重きを置く評価に、参加者たちはすっかり飽きてしまっているように感じます。レイアウトはもっと自由で楽しいもの、という発想に基づいた独創性あるスタイルが、これからのトレンドになっていくと思います。

Q 最後にあなたにとって IAPLCとは何か教えてください。

私にとってIAPLCは、人生をかけて挑めるほどの偉大なコンテストであり、大天才・天野 尚先生が遺してくれた、世界中の人と植物をつなぐ最高に楽しい遊び場だと思っています。これからも心から楽しんで参加していきたいです。



生体に影響のない塗料で流木を白く塗る。



植栽に使う予定の水草を水上で育成。



下草を植栽後、高湿度の状態(ミスト式)で根が盛り上げたソイルを固める程度に育成していく。

PROFILE

タナカカツキ

Katsuki Tanaka

年齢 / 58歳 国名 / 日本
職業 / マンガ家 アクアリウム歴 / 14年
過去の受賞歴 /

IAPLC2011 105位
IAPLC2012 22位
IAPLC2013 16位
IAPLC2014 13位
IAPLC2015 8位
IAPLC2016 4位
IAPLC2017 14位
IAPLC2020 19位
IAPLC2021 17位
IAPLC2022 21位
IAPLC2023 30位

創造の人・天野 尚の軌跡。 文／阿部 正敏

超大判フィルムの世界

第10回 大佐渡スカイライン・千竜桜 (2007年5月撮影) フジクローム・ベルビア (RVP) 8×20 in

※このページではカラーリバーサルフィルムの色をできるだけ忠実に再現し、
実物の約70%の大きさに縮小した画像を掲載しています。

天野 尚と愛用の大判カメラ
1 8×20 in 2 8×10 in
3 11×14 in
4 4×5 in 5 5×7 in



天野が発見した佐渡島の「宝」

2004年、日本国内で超大判フィルムによる生態風景写真の撮影を本格的に始動した天野は、佐渡島を撮影地に決めた。日本海の新潟県沖に位置する佐渡島は、日本では沖縄本島に次いで二番目の大きさの島であり、海岸線から標高の高い山地まで、変化に富んだ地形に豊かな自然が広がっている。それ故に、佐渡島は「日本の自然の縮図」とも

言われており、四季を通じてさまざまな風景が撮影できることが大きな魅力であった。また、1990年代初頭、スキューバダイビングによる水中写真の撮影に没頭していた天野は頻繁に佐渡島を訪れていたため土地勘もあった。天野は佐渡のコブダイを間近に捉えた水中写真「鬼踊り」で、1992年の富士フィルム・ネイチャーフォトコンテストグランプリ

を受賞している。そんな縁もあり、再び佐渡島に足繁く通うようになった天野は、自然の中でたくさんの「宝」を発見してきた。その最たるものが、大佐渡山地の原生林で出会った「金剛杉」と言えるだろう。2008年G8北海道洞爺湖サミットの晩餐会会場にこの巨大杉の超特大写真パネルが展示され、撮影者である天野の名前と共に一躍有名になった。



地図に載った「千竜桜」

今回取り上げた千竜桜は、金剛杉に次ぐ「宝」と言えるだろう。千竜桜は、大佐渡スカイラインの最高点(標高942m)と白雲台(標高850m)の中間ほどの場所に自生する株立ちの山桜で、種としてはミネザクラ(タカネザクラ)とされている。天野はこの山桜を一目で気に入り、地面から天に向かって伸びる無数の枝を竜に見立てて「千竜桜」と名付けた。

この山桜は以前から地元の人には知られていたが、特に名前はないのであった。その後、天野が超大判フィルムで撮影して発表した写真とともにこの名前が定着し、今ではグーグルマップにも「千竜桜」の名前で載っているほど有名になった。この千竜桜は積雪の多い厳しい環境に自生しているため横に広がった独特の樹形をしており、その樹形が

8×20 inの超大判フィルムに見事にフィットしている。この年は快晴の青空の下、満開の千竜桜を撮影することができたが、この木は花の咲き方が気まぐれで花期も極めて短いため、満開にならない年もある。ちなみに、天野の代表作の一つである激しい風雨の中で撮影された「妖艶千竜桜」は、珍しく満開になった2011年5月に撮影された。



天野の代表作の一つ「金剛杉屹立」。この作品では、8×20 in超大判フィルムのパノラマフォーマットを生かし、金剛杉の上部を大胆にカットすることで、霧が立ち込める原始の森で枝を大きく横に広げる金剛杉の威容が見事に強調されている。この作品の素晴らしさは、原版の超大判フィルムから大きく引き伸ばせば引き伸ばすほど、さらに際立つ。機会があれば、ぜひ写真展会場などで実際に超特大写真パネルをご覧ください。

水草道!

AJと刻む時間



Illustration / Hayase Kato

STAFF CREDIT

Publisher
天野 ののぶ

Art Direction
丸山 悟司

Design
市川 亮 / 高遠 将史 / 板橋 広夢

Editor
岩堀 康太 / 松本 隆介 / 加藤 颯世
霜鳥 友莉恵

Supervisor
大岩 剛

Photo Supervisor
阿部 正敏

Published by
株式会社 アクアデザインアマノ
https://www.adana.co.jp

Printed by
株式会社山田写真製版所

小さな生命を愛せずして、
大自然を語ることはできない。

表紙
写真撮影：阿部 正敏
水景制作：井上 大輔



アクアジャーナルの情報は一部、
ADAホームページで公開しています。
AQUA DESIGN AMANO CO.,LTD.
©2025 Printed in JAPAN



REPORT

Photo & Text / Hayase Kato



Bulbophyllum polliculosum

東南アジア原産の着生ランの一種。春の早いころ、2つ一組の花を咲かせる。冬の間は、比較的乾燥気味に管理してきた。これからは生長期に入るので、しっかりと水、肥料を与えて太らせていきたい時期になる。しかし、頭ではわかっているのだが、次の年に作落ちしてしまうことが多い。こうした休眠期のある植物に対して、不器用な私はどうも苦手意識がある。自生地 of 自然に身を置くことによって、わかることがあるだろうかと海外に思いを馳せる。はぁ、タイに行ってみタイ。



ADA LABでは、常にADAスタッフが水槽の管理を行っており、その様子を店頭でご覧いただけます。手をかけ環境を整える姿からは、私たちの真実に水槽に向き合う情熱が伝わると思えます。また、実際の作業風景には、水槽づくりのヒントや発見がぎゅっとあるはず。ご自宅の水槽についても気になることがあればぜひお気軽にご相談ください。水草と過ごす心地よい時間への第一歩を、ADA LABで体験してみませんか。

Photo & Text / Ryusuke Matsumoto

PLANTS PORTRAIT

日々植物の育成に勤しむ松本 隆介の視点で、毎月ひとつ植物を紹介します。

INFORMATION



Daimaru Tokyo 10F 1-9-1, Marunouchi,
Chiyoda-ku, Tokyo 100-6701, 10:00 - 20:00



ADA LAB TOKYO RENEWAL OPENING

ADA NATURE AQUARIUM NEW LIGHTING SYSTEM

AQUASKY RGB BASIC 450

アクアスカイ RGB
ベーシック 450

W450mm水槽に対応するモデルが新登場

独自の調光技術により、R (赤) G (緑) B (青) それぞれの出力を最適化することで、水草が健康に育つことはもちろん、水草本来の色である緑や赤が鮮やかに発色し、水草レイアウトをより美しく演出します。また、3段階で光量調整を行うことができるタッチ式スイッチを採用することにより、育成する水草の特性に合わせて光量調整が行えます。



近日発売予定
アクアスカイ RGB ベーシック 450
価格：38,500円 (税込)

[対応水槽]
キューブガーデン
W450×D270×H200 (mm)
ガラス厚5mm
キューブガーデン
W450×D270×H300 (mm)
ガラス厚5mm

WEB



AJはデジタルへ。

月刊『AJ』は、1994年6月1日に創刊された月刊『アクア・ジャーナル』から続くADAの情報誌として毎月発行してまいりましたが、紙媒体としてのAJは本号をもちまして発行終了とさせていただきます。今後は「WEB版AJ」に完全に移行し、ADAの最新情報やノウハウをよりタイムリーにお届けいたします。長年にわたり月刊『AJ』をご愛読いただき誠にありがとうございました。

AJ編集部一同



ADA NATURE AQUARIUM
AQUASKY RGB BASIC 300/450



ネイチャーアクアリウムのための光

